

# JAERA

# News Letter

Nov/25/2008 No.20

## 3R推進月間キャンペーン実施

### 機構役職員が新橋駅頭でビラ配り

経済産業省を含む8府省では、3R推進に対する国民一般の理解、協力を求めるため、毎年10月を「リデュース、リユース、リサイクル推進月間」(略称3R月間)と定め普及啓発活動を行っていますが、日本ELVリサイクル機構でも「自動車リサイクル普及推進月間」と位置づけ、これまでもキャンペーン活動などを実施してきました。本年も、各地で機構メンバー、関係者のご協力によりキャンペーン活動を行なわれていますが、初日の10月1日、機構の役職員が参加して新橋駅頭におけるビラ配りを行いました。

当日、昼過ぎに本部事務所に集まった十数名は、先ず、ビラとティッシュの袋詰め作業を行い、その後、各自真っ白のツナギを身にまとって、新橋駅頭に繰り出し、約二時間かけて、通行人に千枚のビラを配布しました。また、今回は、経済産業省の自動車リサイクル室の面々も、袋詰めやビラ配りといった、日頃慣れない作業に参加してくださいました。

最初は「自動車リサイクルシステムにご協力ください!」、「我々は自動車リサイクルを推進しています!」等の声もなかなかでず、通行の人々に無視される場面も見られましたが、その内に声だしにも慣れ、ビラをもつ手もまっすぐにさせるようになり、当初の予定をかなり上回るペースで千枚のビラを配り終わりました。

最後に、SL広場にて記念撮影をして当日の作業を



〈いざ出発!〉

◆ 終わりました。今回のキャンペーンでは、全国の多くの会員各位にもご参加頂き、各社の店頭にて30万枚を超えるビラを配布して頂いているほか、合計3千本近くのキャンペーン用幟旗を店頭に掲示いただくなどのご協力をいただきました。皆さん、ご協力大変ありがとうございました。◀



〈ビラの袋詰め作業に没頭〉



〈代表理事、総務部会長も参加して・・・〉



## 中国政府視察団受け入れ

国際協力機構(JICA)が招聘した中国政府商務部(日本の経済産業省に相当)条約法律局\*を中心とする自動車リサイクル視察団が来日し、経済産業省の要請に応じて当機構も受け入れに協力しました。

中国では、既に使用過程の乗用車が5,700万台に達しており、さほど遠くない将来、わが国はるか、米国をも凌駕する世界一の自動車大国になるであろうといわれていますが、一方、自動車にかかわる諸制度は未成熟で、中でも廃車処理を含む環境対策の立案、実施が急がれています。

今回の視察団が、将来リサイクル制度導入時に法案作成を担当する部局中心に構成されていたのもそのような背景があつたの事と想像できます。



〈展示場にて記念撮影(コーパーツにて)〉



〈清水社長の説明に熱心に耳をかたむける一行(コーパーツにて)〉

一行10名は、さる9月4日、日本ELVリサイクル機構酒井代表理事、木内総務部会長他の案内で、午前中に株式会社コーパーツ、午後は株式会社エコアール(何れも当機構会員)を訪問し、現場視察ならびに質疑応答を行いました。一行のほとんどは、恐らく初めて見る解体現場で、多くの車が手際よく解体されて行く光景を熱心に視察しておられました。また、中国では



〈現場では通訳さんも戸惑う場面が(エコアールにて)〉

▼まだ十分使用に足る車が次々に解体されるのにも驚いている様子が伺えました。エアバッグの車上作動も始めて目にする光景であったようです。

会議室に戻ってから質疑を行いました。一行からの質問は、解体業の採算性とリサイクル料金預託の仕組みに集中していました。視察団の構成員が、実際に

\*商務部の中で法律の制定にかかわる部署



〈一日の視察を終えて（エコアールにて）〉

▼一行は、既に経産省や自工会を始めとする関係諸機関を訪問し、我が国の制度に関する説明を受けていましたが、やはり現場を実際に視察し、その場で実務者から説明を受けることにより実態がよく理解できたと、今回の受け入れに対し、訪問先ならびに当機構に謝意を表して一日の視察を終えました。◀

## 研修旅行

東日本資源リサイクル株式会社 小林修二

千葉県自動車解体業協同組合（木内俊之理事長）では、9月7日、8日で研修旅行を実施しました。同組合では、先進性や特異性のあるリサイクル工場の見学を通して、組合員の解体技術の向上に努めると共に、組合員相互の親睦をはかる目的で、毎年この時期に研修旅行を実施しています。今年は、長野県の「協同組合長野県中古車リサイクルセンター」に組合員18名がお伺いしました。

同リサイクルセンターでは、飯塚所長様、村田事務長様から概要の紹介を受け、集荷方法も我々と大きく違うこと、目標が全部利用、リサイクル率に重きを置い

ておられるなど、我々とは生き立ち、取組み方法の違いに驚かされました。

続いて、工場を見学させて頂きましたが、敷地面積8000坪の広さに圧倒されると共に、処理工程でも、レーン別に整然と解体処理がなされ、ニブラで解体し、最終的には、全部利用のためにプレスされ実に効率よく解体されていました。残念ながら充分な意見交換ができませんでした。工場の清掃、治工具の整頓、整然とされたパーツの保管方法など本当に勉強になりました。

今回の旅行は近在ということもあり、バスの中で大いに盛り上がりると同時に、ホテル内でも夜中まで皆で一緒に過ごし価値観を共有でき、親睦と視察の両目的が達成された有意義なものでした。◀

## アーバンマイン

日本ELVリサイクル機構 代表理事 酒井清行

最近耳にする言葉である。廃棄物を「貴金属・希少金属の鉱脈」と見なして言う言葉で、都市鉱山とも言う。「電子基板から銅を取り出す」「電子部品から金を取り出す」と言った具合に、廃棄物から貴金属・希少金属を取り出すビジネスが注目されるようになっている。廃棄物中の貴金属の含有量は、一般に、鉱石中の含有量に比べて多いため、より少ないコストで貴金属を取り出すことが可能なのだ。

近年の資源市況の乱高下の背景には、そもそも、貴金属、希少金属の生産が一部の国に偏在していることと、中国、インド、ブラジル、ロシアといった、急速な経済成長の過程にある国々におけるタイトな需給バランス

▼があるといわれている。とすれば、この資源市況はこれで一段落とは言えず、まだまだドラマが待ち構えていると覚悟すべきだろう。

アーバンマインは、一般的には廃棄される電子機器から回収される貴金属を指して言われることが多いが、日本におけるこれら電子機器に含まれる金や銀の量は、金で6800t、銀では6万tと、それぞれ世界の埋蔵量の16%と22%に匹敵するそうだ。

昨年度、我が国で自動車リサイクル法に則って処理された使用済み自動車は、371万台に上った。これらELVから回収可能な金属類は、ボディガラクが204万t、その他の鉄スクラップ56万t、エンジン93万t（うちアルミニウム19万t）、ワイヤーハーネス11万tというような量になる。貴金属や希少金属に関しては、車載の電子機器に使われており、現在、排ガス浄化用の触媒

▼ 以外はほとんど活用されていない。

見方を変えれば、我々自動車リサイクル産業が処理するELVは、これだけの資源を提供している都市鉱山ということになり、もし、わが業界が一致団結し、回収・集荷システムを構築し、出荷先を選択するなど協調的行動をとれば、新たなビジネスチャンスを創造するのみならず、大きな社会貢献を果たすことにもなる。将来への希望は希望として、例えば鉛を取り上げてみよう。ELV1台につき100g前後のホイールバルンサーが回収できるが、これを共同出荷できれば、1000台で100kg、1万台で1t、10万台で10tの鉛が出荷できよう。更にバッテリーに広げると、鉛の重量だけでも50倍にはなるだろう。

個社では難しくても、地域の同業者が協調的行動をとれば可能な話ではないだろうか。これまで我々は、「唯我独尊」的の体質が強かったが、皆で力をあわせることにより、我々が関わっている産業の潜在的パワーを有効に活用できるようにならないだろうか。 ◀

## 合同会議によるヒアリング開催

政府の産業構造審議会と中央環境審議会の自動車リサイクル部門に関する合同会議では、リサイクル法施行後5年以内に行うことが定められている制度見直しを開始しました。去る10月22日に行われた第一回目を皮切りに、今後関係者に対するヒアリングが順次開催されます。第一回ヒアリングはASRのマテリアルリサイクルを行う企業、サーマルリサイクルを行う企業ならびにエアバッグの作動処理ならびに再資源化を行っている企業の代表者が意見を述べ、合同審議会の中立委員との質疑に応じました。次回のヒアリングは11月4日に開催され、解体業者と破碎 ▶

### <jaera本部からのご案内>

#### 本年度のインストラクター研修会始まる

去る10月10日の九州・沖縄ブロック共催の研修会を皮切りに、本年度のインストラクター研修会が始まり、今後、全国各地のブロックにおいて合計10回の研修会が開催されます。

今回の研修会は二部制で、第一部では、トヨタ自動車株式会社環境部との共催による「ハイブリッド車の電池取り外し回収」、第二部では、自動車再資源化協力機構（自再協）との共催による「電子マニフェストシステム誤入力対策」をメインテーマとして実施されます。

研修会は年内に完了し、その後は、受講したインストラクターが講師となって、各地域団体ごとの講習会が順次開催されることになる予定です。会員の皆様には、各地域団体より案内があるかと思われまので、その際は奮ってご参加頂き、会員各社の技術ならびに事務処理能力向上に向け、講習会の活用を図られるようお願いいたします。

▼ 業者がそれぞれヒアリングを受けることになっています。解体業者については、当機構酒井代表理事が出席し、業界の現状や問題点、今後への課題などを述べ委員からの質問に応じることになっています。酒井代表理事には熱弁をふるって頂き、解体車の集荷難、また昨今の原料価格急落など、解体業者が直面している諸問題について、関係者の理解が得られるよう期待されます。

なお、今回のヒアリングは公開で開催されるため、傍聴を希望する会員各位は、予め、経済産業省ならびに環境省のWEBサイト 経由あるいは機構本部を通じてお申し込みください。 ▶

### 編集後記

前号が発刊されたころは、いまだ猛暑の名残に寝苦しい思いをしていたのが嘘のような秋の気配が日々深まる今日この頃、季節が巡ることを今更ながら実感しています。そんな中、世界的な金融不安を引き金とした世界経済の急激な悪化、その結果としての原料価格の急落が我々業界を襲い、会員の皆様も大変な苦境に直面しておられるであろうことが想像できます。経済の循環といってしまうまでもありますが、生身の人間にとってはそんなことでは済まされません。一日も早い経済回復、市況の回復を祈るばかりですが、わが国を始め、主要各国政府が打つ手も効果なく、先の見通せない不安感が蔓延しています。そんな中でリサイクル制度の見直し作業が始まりましたが、自動車リサイクルの担い手である解体業者が、環境に配慮しつつ、喜んで仕事ができるような環境作りを主眼とした論議が展開されることを願って止みません。

本年も全国規模のインストラクター研修会が始まりました。各地で研修に参加されているインストラクターの皆さん、ならびに研修会を支えているブロック長を始めとする関係者の皆さん大変ご苦労様です。自動車解体業が自動車リサイクル業へ転換しつつある現在、将来を見据えた新しい技術、知識の習得は極めて重要と思われます。今回ご協力いただく自再協ならびにトヨタ自動車株式会社には心よりお礼申し上げます。

有限責任中間法人 **日本ELVリサイクル機構** [JAERAニューズレター]

発行日：2008年10月25日 発行所：〒105-0004東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F TEL.03-3519-5181 / FAX.03-3597-5171